

第3学年 国語科学習指導案

3 年 17名
指導者 三宅健二

1 単元名 「すがたをかえる〇〇」事典をつくろう

共通教材 「すがたをかえる大豆」 (光村 3年下)

2 指導にあたって

(1) 単元の構想と展開について

本学級の学習者たちは、週1回の朝の読書、隙間時間の読書などとおしていろいろな本を読んでいる。魚や昆虫の図鑑が好きでよく見ている学習者や、文章量は多くないが、学級文庫においてある科学絵本、科学読み物を積極的に選んで読んでいる学習者がいる。

説明文は、前期に「ありの行列」を学習し、基本的な構成（はじめ—なか—おわり）や段落、キーセンテンス、キーワードなどについて学んだ。また、同教材を参考に、筆者の論理展開をまねながら、総合的な学習の時間に学んだ事例を説明文で表現することにも挑戦した。

以上のような学習者の関心の高まりを受け、本単元を構想した。この単元では、筆者の伝え方を読み取り、それをまねながら「すがたをかえる〇〇」という形で、学習者一人一人が説明文を書く。そして、その「書く」という活動と結び付けながら、再度、文章の構成や表現の背景にある筆者の意図を「読む」活動に戻していきたい。

まず、「すがたをかえる大豆」を分析的に読む中で、接続詞の使い方や事例の取り上げ方（文章構成の工夫）、助詞の使い方や文末表現（表現方法の工夫）を読み取らせ、それらのもつ表現上の効果を理解させる。そして、次に筆者の文章をなぞりながら、身近な食べ物の秘密について調べたことを文章に表現させる。そうすることで、筆者の思考過程や表現のよさ、息づかいを感じ取らせる。

このように「分析読み」と「書くことと結び付けた読み」という2種類の読む活動を経験させることで、生活と結び付けながら文章に込められている深い意義を見出す力を育てたい。

(2) 教材について

第1次では、まず学習の方向性を示し、第2次から共通教材「すがたをかえる大豆」を取り扱う。この教材は、はじめに「問い」が出され、それに対する事例を挙げていくという「解説型」説明文の典型である。また、段落構成や接続詞・助詞の使い方、文末表現、繰り返し使われることばなどが、たいへんよく工夫されていて、筆者の意図を容易につかむことができる。それゆえに、学習者が説明文を書くときの格好のモデルになるのではないかと考えた。

第3次では、自分の選んだ食材に関して調べたことを説明文に書いて発表する。学習者が食材に対して視野を広げられるよう、読みやすい本を用意し、場合によってはインターネットで調べた資料も加えた。

(3) 主体的・自覚的にことばを学ぶための手立てについて

単元の目標は、自己の経験と筆者の思考過程や表現意図を重ねながら、「すがたをかえる〇〇」事典をつくることである。その過程で主体的、自覚的にことばを学ぶことができるよう手立てをした。

- 食材がすがたをかえることに興味が向くよう、材料あてクイズをしたり実物を見せたりする。
- 学習の手引きを工夫し、一人一人が「段落構成、接続詞・助詞の使い方、文末表現、繰り返して言葉を使う」などの筆者の工夫をとらえられるようにする。また、それらを学習の手引きに載せ、文章を書くときの着眼点やモデルとなるようにする。
- 各授業や単元末で「後書き」を書く時間に、共通教材のよさに改めて気付かせる場をつくる。「読む」活動のときには気付かなかった筆者の表現の工夫や考えを発見できたかを問い、「書く」学習が「さらに深く文章を読む」学習にどのように活かされたかを自覚させたい。

3 単元の目標

(1) 学習者の活動目標

- 「すがたをかえる〇〇」事典をつくろう。

(2) 指導目標

- 「すがたをかえる大豆」の段落の組み立て方の工夫について気付いたり、接続語、文末、繰り返しなど、文脈におけることばの意味をとらえたりすることができるようにする。
- 調べ学習のとき、自分の必要とする情報を選択し、抜き出すことができるようにする。
- 「すがたをかえる大豆」をなぞりながら文章を書く中で、文章の構成や事例の並べ方、ことばの使い方などの工夫を感じ取ることができるようにする。

4 単元の評価

	評価基準	○「十分満足できる」と判断される状況 ◎「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導 【 】は評価資料
読むこと	文章構成を理解する中で、筆者の主張は何かを考えている。 【読みの質】	○ 例を挙げる順や、一番言いたいことの書き方など、筆者の文章構成の意図を十分に理解した上で、それをもとに筆者の主張に迫っている。 ◎ 例の挙げ方の工夫、一番言いたいことの書き方の工夫などについて考えさせ、筆者の主張に迫らせる。 【発表内容・発言・学習の記録】
	ゆっくり時間をかけて、文章構成や表現の工夫を読み取っている。 【読み方】	○ 段落構成、接続詞・助詞の使い方、文末表現、繰り返しなどの特定の視点を基に分析しながらじっくり読んでいる。 ◎ 教材を3つに分けて、読み取る視点をそれぞれに振り分ける。それらが見て分かるように学習の手引きを工夫し読ませる。 【発表内容・発言・学習の記録】
	段落の組み立ての工夫について気付いたり、接続語、文末、繰り返しなど文脈におけることばの意味をとらえたりしている。 【付けるべき能力】	○ 文章全体の組み立てに目を向け、段落の組み立て、接続詞や助詞の使い方、文末の書き方、繰り返しにも筆者の意図が表れていることに気付いている。 ◎ 学習の手引きを工夫し、「はじめーなかーおわり」という構成を読み取れるようにする。また、助詞や文末を他の表現にした文章と比較し、印象がどう変わったかを考えさせる。 【発表内容・発言・学習の記録】
書くこと	筆者の文章をなぞりながら、構成や事例の並べ方、ことばの使い方などをまね、大豆を自分の選んだ素材に置き換えて書いている。	○ 表現のよさや筆者の息づかいを味わいながら、段落構成、接続詞・助詞の使い方、文末表現、繰り返してことばを使うなどの工夫を活かして、分かりやすい説明文を書いている。 ◎ 「すがたをかえる大豆」から読み取った工夫を、そのまま学習の記録に書き写せるようにし、かつそれが文章を書くときのヒントになるようにする。 【観察・学習の記録】

5 単元構想表 (全 11 時間)

学習活動	学習者の意識の流れ	主な指導・支援	付けるべき能力
【事前】 他の教科と関連させ、調べたことを図鑑や紹介カードなど多様な形で表現する経験を重ねておく。 1 「すがたをかえる大豆」を読む中で、食べ物事典を作ろうという学習の方向を知る。 (1 時間) 2 「すがたをかえる大豆」を読む中で、紹介する文章の書き方を知るとともに、いろいろな食材についての興味、見方を広げる。 (4 時間) - 全体 1・2 段落 3～7 段落 8・9 段落 3 図書室の本より自分が読みたい食品を選び、構成マップを作る。 (2 時間) 4 「すがたをかえる大豆」の文章をまねながら紹介する文を書く。 (3 時間) 【本時 1 / 3】 ○文章をまねながら書く。 ○絵や写真を入れ表紙を書く。 5 「後書き」を書き、できあがった作品をみんなで読み合う。(1 時間)	「ありの行列」科学者の考え方をまねながら身近にある事例をとらえてみるっておもしろいな。 「町探検、おもしろ図鑑を作ろう」「生き物図鑑を作ろう」図鑑にして表現するっておもしろいな。 食べ物博士になって「すがたをかえる○○」事典を作ろう。 「すがたをかえる大豆」では、大豆の変化を筆者はどのように伝えているのだろう。 どのような文章構成で書かれているか。どのような事例を取り上げているか。 どのようなことば(接続詞、文末表現、繰り返し)が使われているか。 筆者の言いたいことを、どのように表現しているのか。 昔の人っていろいろな知恵を働かせているんだな。 他にどんな姿を変える食べ物があるのかな。 図書室の本を使って調べてみよう。 米 小麦 卵 牛乳 ごま とうもろこし など 「すがたをかえる大豆」の文章をまねながら紹介する文を書いてみよう。 どの事例を選ぶかな。どのような順に事例を挙げればいいのか。 「すがたをかえる大豆」のことばを使いながら書こう。 書く中で、気付かなかった、筆者の表現意図・息づかいが感じられるね。 後書きを書き、事典を仕上げよう。 できあがった作品を読み合わせよう。 「すがたをかえる」というとらえ方はおもしろいな。生活の中に、たくさんあるんだね。 この書き方を使って、もっといろいろなものを表現してみたいな。 違った視点から生活をみるっておもしろいな。	◀ 教室に食材に関する本を並べ、自由に読ませておく。 ◀ 材料当てクイズをしたり、実物を見せたりする中で、姿をかえることに興味をもたせる。 ◀ これまでの作品を作ってきた経験を思い起こさせ、表現しようとする意欲を高める。 ◀ 絵やカードを使いながら文章全体の構成がとらえられるようにする。 ◀ 読み取った筆者の工夫を掲示し、文章を書くときの着眼点やモデルとなるようにする。 ◀ それぞれの段落で読むための視点を絞ることにより、表現しようとする意欲を高める。 ◀ 学習者の興味・関心に合わせて、読み広げることができるよう資料をそろえておく。 ◀ 取り上げたい事例に付箋を貼らせる。付箋の色を工夫する中で、どのような順で事例を挙げれば効果的なのか考えさせる。 ◀ 例を示し、必要な部分だけを変え、「すがたをかえる大豆」の文章をなぞりながら書いたらよいことに気付かせる。 ◀ 書き換える中で、気づいたことを発表させ、書きながら「読み」を深めることのよさに気付かせる。 ◀ 自分の制作過程を振り返ったり、友達の作品を読み合ったりする中で、自分たちの生活がより広くとらえられるよさに気付く。	○一般的な説明文の段落の組み立てに気付く。 ○事例の並べ方をとらえる。 ○接続語、文末、繰り返しなど、文脈におけることばの意味をとらえる。 ○進んでいろいろな本を読む。 ○調べたことから書く事柄をまとめる。 ○読み取ったことをもとに、全体の文章の構成や事例の挙げ方を工夫する。 ○段落と段落のつながりが表れるようなことばを使う。 ○主語と述語の照応などに気を付けて読み返す。 ○自分の文章を読み返し、直したり、工夫したりする。 ○友達の感想や意見に触れ、自分との共通点・相違点に気付く。

6 本時の学習

(1) 本時の学習について

本時は、自分たちが調べた食材の変化について説明文を書く授業の1時間目である。授業を2部構成にする。前半では「すがたをかえる大豆」を読み、自分の作文に活かせるところの横に書き込んでいつてメモを作らせる。後半では、調べたことを実際に作文に書かせる。それぞれの作業がスムーズに進むよう学習の手引きを工夫していきたい。

(2) 目標

① 学習者の活動目標

「すがたをかえる大豆」をなぞりながら「すがたをかえる〇〇」事典を書こう。

② 指導目標

教材文への書き込みメモをもとに、自分が書く文章の構成やことばの使い方などを工夫できるようにする。

(3) 展開

時間	学 習 活 動	指 導 ・ 支 援
10	1 前時までの内容の復習をとおして、本時のめあてをつかむ。 「すがたをかえる〇〇」事典を書こう。	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習に対するヒントとする。
15	2 「すがたをかえる大豆」の1段落、2段落を参考にしてメモを作る。	2 1段落は教材文を写し、行間を広くとってそこへ自分の選んだ食材のことを書きこませ、2段落は教材文の中の大事な文を話形として利用できるようにする。このようなワークシートを用意することで、読むことと書くことを結び付けることができるようにする。
15	3 2の活動で作成したメモをもとに「すがたをかえる〇〇」事典の初めの部分をつくる。	3 2でつくったメモをもとに、レイアウトを考え、丁寧に書き写させる。
5	4 でき上がった説明文を、友達と読み合ったり、全体場で発表したりする。	4 筆者の表現のよいところで、改めて気付いたことや、他の学習者の表現で、筆者の意図をうまく活かしているところを探させる。

(4) 本時の評価

読むこと	段落の組み立て方の工夫について気付いたり、接続語、文末、繰り返しなど文脈におけることばの意味をとらえたりしている。	○ 文章の「はじめ」の1段落、2段落に目を向け、段落の組み立て、助詞の使い方、文末の書き方にも筆者の意図が表れていることに気付いている。 ◎ 学習の手引きを工夫し、「はじめ」の部分の構成を読み取れるようにする。また、助詞や文末を他の表現にした文章と比較し、印象がどう変わったかを考えさせる。 【発表内容・発言・学習の記録】
書くこと	筆者の文章をなぞりながら、構成や事例の並べ方、ことばの使い方などをまね、大豆を自分の選んだ素材に置き換えて書いている。	○ 表現のよさや筆者の息づかいを味わいながら、段落構成、助詞の使い方、文末表現などの工夫を活かして、分かりやすい説明文を書いている。 ◎ 「すがたをかえる大豆」から読み取った工夫を、そのまま学習の記録に書き写せるようにし、かつそれが文章を書くときのヒントになるように提示する。 【観察・学習の記録】